

平成 17 年度事業報告

自 平成 17 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 3 月 31 日

総 括

事業

A 先導的・連携事業の実施

「地球市民推進事業」として、福島県教育委員会や J I C A 二本松青年海外協力隊訓練所（以下「J I C A 二本松」という。）等と連携して、国際理解指導者向け研修会を年間 6 回実施し、延べ 113 名の教員や N G O 等にその指導法を紹介することができた。また、17 年度の新たな試みとして、福島大学の教員養成課程履修学生に対し 3 回にわたり指導者研修会を実施し指導者の裾野拡大を図った。モデル授業としての地球市民出前教室は、依頼件数が昨年度と比べ 5 校減の計 5 校で実施した。一方、国際理解講座等における外国出身県民の人材バンクの登録者数は、昨年度に比べ 11 名増の 63 名となったもののその紹介件数は 8 件減の 33 件となった。さらに、県、県教育委員会、J I C A 二本松、ふくしま青年海外協力隊の会及び本協会で組織する福島県国際理解教育ネットワーク (Fienet) の事務局として、国際理解教育に関する様々な企画相談に応じるなどして、多角的に県内の国際理解教育の推進に努めた。

「情報化事業」としては、昨年度実施したパワーポイント研修会を 17 年度の新たな試みとして出前型で実施したものの依頼件数は 1 件に留まった。本協会ホームページは、17 年度より本協会主催の各種事業についての実施報告を随時掲載することとした。また、本協会のメーリングリストを活用し、週 1 回程度最新のイベント情報を広く発信するなどして情報化社会に対応した取り組みを行った。

B 情報・相談・支援

「多文化共生推進事業」では、日本語教室の開設に向けた働きかけを行った結果、喜多方市、会津坂下町の 2 ヶ所で新たに日本語教室が開設され、計 24 市町村 37 ヶ所となった。また、外国出身県民に関わる相談業務については、従来の英語、中国語に加え、17 年度より試験的に月 1 回ポルトガル語とタガログ語での対応の試みや、トリオフォン（電話による三者同時通訳）活用、外国出身や帰国生徒に対する特別枠受入高校や日本語教室への巡回相談会を実施するなどして外国出身県民の様々な生活相談に対応した結果、相談件数は、昨年度よりも 23 件増の 559 件となった。県内在住の外国籍住民 500 名に対するアンケートを行い、多言語行政サービスの効果と改善すべき点、外国籍住民の社会参画上の課題等を調査し、県及び本協会の長期計画に反映させた。

さらに、16 年度実施した「ふくしま子ども多文化共生サポート事業」の拡充事業である「ふくしま多文化共生サポート事業」においては、各分野で活躍する外国出身県民と

行政との対話等を盛り込んだワークショップを行い、多言語版の報告書を作成し知事に報告した。また県内3会場でサポーター養成講座を実施し、47名(5ヶ国)の登録者を得ることができ、そのうち延べ14名をサポーターとして中国出身の子どもたちが在籍している保育所や学校等に紹介し早期適応を支援した。一方、中・高校や公民館等で多文化共生出前講座を計15回約700名に対し実施するとともに、県と連携して昨年度作成した外国籍住民の人権に係わる冊子を使って、外国人の人権啓発に係わる出前講座を高校生や一般を対象に計4回延べ140人に対して実施し、さらには、平成15年度に実施した「多文化共生地域づくりリーダー育成事業」の参加者有志が「ふくしまグローバルセミナー」の一分科会を担当するなど、多文化共生社会についての啓発に努めた。

「県民・NGOの活動推進事業」としては、引き続き「ふくしま地球市民フェスティバル」を実行委員会形式で実施し、47のNGO等の活動発表の場を提供することで、NGO活動の一般県民への広報の面で支援した。また、年4回の情報紙ジャイロの発行による情報提供や5団体への助成金交付などを通じて、県民・NGO団体が行う国際交流・協力活動の支援と活性化に努めた。

C ネットワーク調整

「ネットワーク事業」として、日本語教室と市町村国際交流協会の合同ネットワーク会議を実施し、団体間の連携体制づくりと外国出身住民の日本語支援に関する課題の解決に向けた話し合いの場を提供した。また、日韓国交正常化40周年に当たる「日韓友情年2005」を記念して、福島県と韓国との間の交流促進を図るため「うつくしま－韓国文化交流事業」を実施し、韓国現代ファッションショーや日韓交流シンポジウム、日韓伝統芸能の競演など人的・文化的交流事業を2日間にわたり行った。

一方、県からの受託事業として、中南米国留学生及び海外技術研修員の受入事業、JICAからの委託事業としてのラオスの医療看護分野に係る技術協力事業を実施し、海外とのネットワーク構築に努めた。

D 調査研究・提言

国際理解は全人教育という観点から、「小学校体育科における国際理解教育はどうあればいいか」をテーマにした研究を行い、その内容を福島県教育庁県北教育事務所に報告した。

体制

基本財産の運用においては、国債の運用益として年約800万円の基本財産運用収入を得る一方、福島県農業拓植基金協会より解散に伴う残余財産として約1900万円が譲渡された。賛助会員については、各種研修会への賛助会員割引などとしてその拡大に努め、また、団体等に出向いて協力要請を行った結果、昨年度に比べ約20万円増の約180万

円を得ることができた。しかしながら、「うつくしま地球支援募金」においては、昨年度より約 60 万円減の 180 万円に留まった。

組織体制においては、福島県教育委員会より教員体験研修生として小学校教師 1 名を 10 月から本協会で半年間受入れ、「地球市民推進事業」や「地球市民フェスティバル」及び調査研究などの事業に積極的に取り組むなどして、本協会と学校現場との連携の一助を担った。また、引き続き JICA 二本松より国際協力推進員 1 名が配置され、「地球市民推進事業」や「県民・NGO の活動推進事業」などの事業を連携して実施した。

さらに、平成 13 年 3 月に策定した第 2 期の運営基本計画について、県民の声や社会情勢の変化、前計画の評価、及び県の「うつくしま国際施策基本計画」との調整を図り、評議員、理事等からの意見を調整し、評議員会、理事会を経て、平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間の新たな第 3 期運営基本計画を策定した。

事業実績

A 先導的・連携事業の実施

地球市民推進事業

1. 国際理解学習普及事業

(1) 国際理解教育指導者研修会

JICA 二本松との共催で、6 回にわたり小中高校教員や NGO スタッフ等延べ 113 名に対し地球市民の視点での代表的な国際理解のアクティビティの進め方を紹介した。

なお、実施方法として 3 回は、郡山市小学校教育研究会、浪江町教育研究協議会及び船と翼の会ふくしまのそれぞれの団体が主催する研修会への出張型とし、指導者育成という視点からこれまでの本指導者研修会に参加してきた参加者を講師として活用した。

回	日時	会場	参加者数	テーマ	講師
1	平成 17 年 5 月 28 日(土) 10:00~16:00	郡山市総合福祉センター	15 名	参加型学習の進め方とそのポイント(基礎編)	森 良 (NPO 法人 エコ・コミュニケーションズ)
2	平成 17 年 7 月 23 日(金) 9:30~12:30	郡山市立白岩小学校	38 名	国際理解のアクティビティの進め方とそのポイント(出張型)	小熊則子 (会津若松市国際交流協会)
3	平成 17 年 7 月 27 日(水) 10:00~16:00	郡山市労働福祉会館	16 名	子どもたちの世界を広げる英語教育の実践	町田淳子 (ベルワークス)

4	平成 17 年 8 月 19 日 (金) 13:30~15:30	浪江町立 浪江小学 校	12 名	国際理解のアクティ ビティの進め方とそ のポイント (出張型)	布田節子 (ふくしま青年海 外協力隊の会)
5	平成 17 年 9 月 3 日 (土) 10:00~16:00	郡山市労 働福社会 館	19 名	参加型学習の進め方 とそのポイント (実践 編)	森 良 (NPO 法人 エコ・ コミュニケーション ズ)
6	平成 18 年 3 月 19 日 (日) 13:00~16:00	福島県青 少年会館	13 名	国際理解のアクティ ビティの進め方とそ のポイント (出張型)	布田節子 (ふくしま青年海 外協力隊の会)

(2) 福島大学との連携による国際理解教育指導者研修会

福島大学の社会科教職単位履修者を対象に、本協会で開催している 3 つの出前教室「地球市民ってなあに」を素材にした国際理解教育指導者研修会を実施し、指導者の裾野拡大を図った。

日 時：平成 17 年 5 月 19 日 (木)、5 月 26 日 (木)、6 月 2 日 (木) の計 3 回

会 場：福島大学

講 師：氏家盛信 (日本砂漠緑化実践協会)、ちよん ひよんしる (福島韓国語・韓国文化ネットワーク)、布田節子 (ふくしま青年海外協力隊の会)、石田セシリア富美枝

参加者：福島大学教育学部社会科学系教育コースで学ぶ学生 25 名程度

(3) 地球市民出前教室「地球市民ってなあに」

県内の小学校や高校等において 218 名の児童生徒に対して地球市民の意識向上を目的とした講座を実施した。特に今年度は、福島市生涯学習アドバイザーの会主催の「いきいき学び学習」の一環として取り入れられ、本教室の広がりが見られた。

プログラム名	テ ー マ	講 師
A	心に緑の種を 蒔こう	氏家盛信 (日本砂漠緑化実践協会) 幕田順子 ((財)福島県国際交流協会)
B	カラーレンズ	ちよん ひよんしる (福島韓国語・韓国文化ネットワーク) 布田節子 (ふくしま青年海外協力隊の会)

回	プロ グラム名	実施日	実施校等	参加者数
1	A	平成17年11月6日(日) 10:00~12:00	福島市いきいき学び学習	30名
2	A	平成17年11月25日(木) 9:30~11:00	福島市立清水小学校6年生	72名

3	A	平成17年12月7(水) 13:30～15:00	福島県立梁川高等学校3年生	34名
4	A	平成17年12月20(火) 10:25～12:05	二本松市立原瀬小学校5年生	12名
5	B	平成18年1月11日(水) 9:30～11:30	二本松市立石井小学校6年生	34名
6	A	平成18年1月26(木) 13:30～15:00	福島県立福島北高等学校2～3年生	36名

(4) 福島県国際理解教育ネットワーク

福島県国際交流グループ、福島県教育委員会、JICA二本松、ふくしま青年海外協力隊の会及び本協会で構成されるネットワーク組織の事務局として、共同主催事業開催に関する会議の調整を行うとともに、各団体の主催事業紹介のための共同パンフレットを作成し、HP上に掲載するとともに関係者に配布した。その結果、年間を通じて、国際理解教育関係の問い合わせに応じるなどして、コーディネートの役割を果たした。

(5) ふくしまグローバルセミナー2005(主催:福島県国際理解教育ネットワーク)

福島県国際理解教育ネットワークの共同主催事業として、地球市民教育に関するリーダーの裾野拡大を目的としたセミナーを実施した。なお講師24名の内22名が今までの本セミナー参加者となるなど、事業の波及効果が見られた。

日時：平成17年11月26日(土)～27日(日)

会場：JICA二本松

講師：森 良 (NPO法人エコ・コミュニケーションズ代表) 他

参加者：61名(高校生15名、大学生8名、教員10名、一般28名)

(6) その他の国際理解事業

日時	会場	参加者数	事業名	講師
平成17年5月28日(土) 14:00～16:00	(財)福島県国際交流協会	15名	外国出身お母さんによる「チョット聞いて、私流子育て方」	永田リセ、馬嘉利、マリアン森口
平成18年3月25日(土) 10:00～12:00	川内村 いわなの郷	50名	国際理解講座 in かわうち	ちよん ひよんしる(福島韓国語・韓国文化ネットワーク)

2. ふくしま国際交流人材バンク事業

福島市、郡山市、会津若松市及びいわき市の各国際交流協会と連携して、国際理解講座等における外国出身県民の人材バンクを拡充整備し、公民館や学校等の国際理解講座

の講師として紹介した。なお、紹介件数は昨年度の8割に留まった。

○登録者数：63名(昨年度比 121%)

○紹介件数：33件(昨年度比 80%)

3. ニュージーランドとの交流事業(県受託事業)

ニュージーランド教員2名を13日間本県へ招聘し、会津地域及び福島市の4つの中・高校の訪問やホームステイ、日本伝統文化体験等を通じて、福島県民との交流と相互理解を図った。

情報化事業

国際デジタル情報共有促進事業

(1) 情報デジタル化

デジタル嘱託員を配置し、本協会ホームページ上で、「NGOダイレクトリー」や「県内の日本語教室」の内容を更新するとともに、新たに17年度より各事業報告を随時掲載した。なお、各種イベント情報は、メーリングリストによりタイムリーな情報提供に努めた。

○メーリングリスト登録者数：283件

○メーリングリスト利用件数：126件(内、本協会発信件数73件)

○ホームページ(トップページ)アクセス件数：58,814件

(2) NGOのための「はじめてのパワーポイント講座」

デジタル嘱託員が講師となり天栄村国際交流協会と共催で研修会を実施し、国際化・情報化のリーダー育成を図った。

日 時：平成17年10月25日(火)13:00～17:00

会 場：天栄村中央公民館

参加者：10名

B 情報・相談・支援

多文化共生推進事業

1. 日本語教室支援事業(県補助事業)

(1) はじめての日本語の教え方講座

今後、日本語教室を開設したいという市町村を対象に、地域のボランティア育成を目的とした日本語教授法に関する入門講座を実施した結果、喜多方市と会津坂下町で日本語教室を開設する運びとなった。なお、実施にあたっては、開催地の市町村国際交流協会と共同主催とし、内容企画から当日運営まで協働で行うことで連携を深めることができた。

回	日時	会場	参加者数	講師
1	平成 17 年 5 月 28 日(土)～29 日(日) 両日と も 9:30～16:00	喜多方プ ラザ文化 センター	18 名	原しのぶ ((財) いわき市国際交流協 会日本語教室専任講師)
2	平成 17 年 10 月 22 日(土)～23 日(日) 両日と も 9:30～16:00	白河地域 職業訓練 センター	25 名	原しのぶ ((財) いわき市国際交流協 会日本語教室専任講師)

(2) 日本語ボランティアステップアップ講座

日本語ボランティアを対象に、学習者のニーズとレベルに応じた効果的な日本語の教え方の研修会を開催した。なお、実施にあたっては、県内4つの日本語教室（日本語教室ひなぎく、福島国際交流の会、Waの会、本宮町日本語教室）との共催とし、内容企画から当日運営まで共同で行うことで、4教室間及び本協会との連携を深めることができた。

回	日時	会場	参加者数	テーマ	講師
1	平成 17 年 9 月 10 日(土) 13:00～16:30	(財)福島 県国際交 流協会	41 名	コミュニケー ションを重視した 助詞の教え方	高柳和子 (T I J 東京日 本語研修所所長)
2	平成 17 年 10 月 15 日(土) 10:00～16:30	同上	31 名	コミュニケー ションを重視した 助詞の教え方	広瀬万里子 (T I J 東京 日本語研修所所長)
3	平成 17 年 11 月 19 日(土) 13:00～16:00	本宮町中 央公民館	40 名	外国籍児童の第 2 外国語習得の 理論と実践	大蔵守久 (財団法人波多 野ファミリースクール)

(3) その他共催事業

日本語教室に関する団体からの要望に応じて、日本語ボランティアに関する研修会を共催事業とし、内容企画や当日運営について支援した。

回	主催者	日時	会場	参加者数	事業名	講師
1	外国人支援 ボランティア グループ ふれんず	平成 17 年 10 月 30 日(日) 13:00～16:30	相馬市 生涯学 習会館	14 名	日本語の教え 方入門講座	鈴木英子(NPO 法 人 ICAS 国際都市 仙台を支える市 民の会)

2. ふくしま友好外交官事業 (特別会計)

福島県内の大学に在籍中の外国人私費留学生7名を「ふくしま友好外交官」に任命し、

月2万円の奨学金を交付した。これらの外交官は「会津若松市国際交流フェスティバル」や「ふくしま地球市民フェスティバル」などの県内の交流イベントに参加する一方、一般県民向けの中国文理解講座を協会と共催するなど国際交流の広がりを見せた。

李鵬運（中国・山東省 福島大学経済学部2年）

金美英（中国・吉林省 福島大学経済学部3年）

顧明（中国・遼寧省 福島大学経済学部3年）

楊曉玲（中国・遼寧省 福島大学経済学部3年）

薛鵬（中国・遼寧省 福島大学経済学部2年）

謝振琪（中国・広西省 福島大学経済学部2年）

劉建勇（中国・河北省 福島大学経済学部2年）

3. 多言語行政サービス提供事業（県受託事業）

中国語を母語とする中国語相談員を配置し、中国をはじめとする外国出身県民に対する様々な行政サービスの提供に努めた。

(1) 外国籍県民アンケート

県内在住の外国籍住民500名に対するアンケートを行い、多言語行政サービスの効果と改善すべき点、外国籍住民の社会参画上の課題等を調査し、県及び本協会の長期計画に反映させた。

(2) 多言語による被害状況速報の提供

福島県災害対策グループより発信される県内における被害状況速報を、随時英語と中国語に翻訳し、その内容を当協会ホームページ上で提供した。

(3) 相談業務

外国出身県民からの一般生活や行政サービスに関する相談に対し、トリオフォン(三者同時通話)を活用するなどして随時日本語、英語及び中国語で対応した。また、7月からは、毎月第2水曜日午後をポルトガル語とタガログ語を加えた多言語相談日とし、相談体制を強化した。さらには、外国人生徒等に係る特別枠選抜により入学した生徒が在籍する2つの高校といわき市の日本語教室の計3会場で巡回生活相談会を実施し、福島市近郊以外の外国出身県民にとってもより利用しやすい生活相談会の実施に努めた。

○相談件数

559件（内52件は、トリオフォンを利用した相談件数）（昨年度比104%）

○主な相談内容

生活全般（159）、在留資格（76）、通訳翻訳（72）、家族（70）、労働（40）、教育（37）など

○主な相談者出身国

中国（322）、日本（106）、フィリピン（27）、アメリカ（38）、カナダ（12）など

4.多文化共生出前講座

(1)カナダの歴史から

カナダ出身国際交流員が県内中学校・高校及び公民館等の主催する国際理解関係事業で、約700名に対しカナダの歴史から考える多文化共生についての講話を行い、多文化共生の考え方の啓発に努めた。

回	主催者	月日	参加者数
1	原町市国際交流協会	平成17年4月23日(土) 14:00~15:00	25名
2	保原町国際交流協会	平成17年4月26日(火) 18:45~19:45	25名
3	福島県立中央高等学校	平成17年7月6日(水) 20:00~21:00	35名
4	飯野町公民館	平成17年8月23日(火) 13:30~15:00	35名
5	福島県立小高商業高等学校	平成17年9月6日(火) 13:20~15:10	28名
6	福島県立二本松工業高等学校	平成17年9月8日(木) 14:00~15:00	40名
7	福島県立光南高等学校	平成17年10月21日(金) 8:55~10:25	140名
8	福島県立光南高等学校	平成17年10月28日(金) 13:10~15:00	140名
9	福島県立本宮高等学校	平成17年11月16日(水) 13:00~15:00	40名
10	福島県立二本松工業高等学校	平成17年11月17日(木) 14:00~15:00	40名
11	郡山市立大槻東地域公民館	平成17年12月8日(木) 13:30~15:30	38名
12	福島県立福島北高等学校	平成17年12月15日(木) 13:30~15:10	32名
13	福島市教育委員会学校教育課	平成17年12月17日(土) 9:20~11:20	28名
14	福島県立福島北高等学校	平成18年2月2日(木) 13:25~15:15	40名
15	福島市信陵学習センター	平成18年2月23日(木) 13:30~15:30	20名

(2)外国出身県民の人権の立場から

本協会職員が講師となり市町村国際交流協会等が主催する各種事業において、平成16年度に福島県国際交流グループと協力して作成した冊子「考えてみませんか？外国籍住民の人権のこと」を使って、140名の県民に対して外国出身県民に関わる人権啓発を図った。

回	主催者	月日	参加者数
1	学法福島高等学校	平成17年10月8日(土) 10:30~12:00	73名
2	保原町国際交流協会	平成17年11月30日(水) 19:00~20:30	30名
3	郡山市国際交流協会	平成18年1月28日(土) 10:30~12:00	24名
4	会津若松市国際交流協会	平成18年2月18日(土) 15:30~17:00	13名

5. ふくしま多文化共生サポート事業（(財)自治体国際化協会補助事業）

企業や市町村国際交流協会、教育機関、医療機関などで活動している7ヶ国14名の外国出身県民で組織されたふくしま多文化共生社会推進委員会によるワークショップや県内3会場でのサポーター養成講座を実施し、広く県民の多文化共生についての啓発を図った。その結果、サポーターとして47名（うち外国出身者12名）の登録を得るとともに、外国出身の児童生徒のサポート等11件において14名のサポーター派遣をコーディネートすることができた。

(1) ワークショップ

回	日時	参加者	内容
1	平成17年7月5日(火) 9:30~12:00	推進委員会9名	これからのワークショップについて
2	平成17年7月19日(火) 13:00~16:00	推進委員会10名 市町村教育委員会12名	教育
3	平成17年8月23日(火) 9:00~12:00	推進委員会7名 市町村国際交流担当部局 17名	地域コミュニティとの関わり
4	平成17年9月16日(金) 13:00~16:00	推進委員会7名 市町村教育委員会12名	報告書作成
5	平成17年10月12日(水) 13:30~16:00	推進委員会10名	県知事への報告

(2) ふくしま多文化共生サポーター養成講座

○日時、会場、参加者数

回	日時	会場	参加者数
1	平成17年11月12日(土)~13日(日)10:00~16:00	会津若松市中央公民館	25名
2	平成17年12月3日(土)~4日(日)10:00~16:00	いわき市生涯学習プラザ	18名
3	平成17年12月17日(土)~18日(日)10:00~16:00	郡山市労働福祉会館	38名

○内容

テーマ	講師
講話「福島県の多文化の現状とサポーター事業について」	県国際交流協会職員
演習「多文化共生を模擬体験」	[会津若松、いわき会場] 布田節子(ふくしま青年海外協力隊の会) [郡山会場] 菊地恵美子(国際交流の会・かるみあ)
講話「日本における多文化共生のあり方を考える」	[会津若松、いわき会場] 王慧権(多文化共生センター東京 21) [郡山会場] 関口耕一郎(多文化共生センター東京 21)
報告「ふくしま多文化共生社会推進ワークショップ」	[会津若松会場] 菊地梨紗、ジョアン ヒカソ、金賢淑(ふくしま多文化共生社会推進委員会) [いわき会場] 寶元珠(ふくしま多文化共生社会推進委員会) [郡山会場] 加藤美子(ふくしま多文化共生社会推進委員会)
演習「通訳の基礎的な心構え、テクニック、及びトレーニング」	菅野エリ(スペイン語通訳者)
演習「国際理解講座の講師としての効果的な伝え方」	[会津若松、いわき会場] 青木アタヤ(宮城学院女子大学) [郡山会場] カベンカ マーリス(ルワンダの教育を考える会)

(3) サポーター紹介コーディネーター

紹介先	内容	件数 (サポーター数)
福島市教育委員会	中国出身小学校児童の通訳及び日本語指導	1件(2名)
白沢村、三春町、田村市、本宮町、福島市の教育委員会	中国出身中学校生徒の通訳及び日本語指導	8件(10名)
福島市立保育所	中国出身幼児の保護者に対する通訳	1件(1名)
福島地方法務局郡山支局	中国残留邦人の戸籍調査の通訳	1件(1名)

情報提供事業

1. 日本語版『国際交流情報紙ジャイロ』

県内の国際交流イベント情報や、本協会の主催事業紹介などの情報を掲載した情報紙

を発行し賛助会員をはじめ公民館等の公共施設に配布するとともに、本協会HP上においても掲載し、一般県民へ情報提供に努めた。

○仕様：8ページ 2色刷り 3,000部

○発行時期：年4回

2. 英語版『国際交流情報 Gyro』

県内の外国出身者にとって役立つ一般生活情報等を、英語で本協会HP上に随時掲載した。

相談事業

これまで本協会では蓄積した情報・ノウハウ・ネットワークを生かし、多種多様な相談に応じた。

○相談件数：34件(前年度比98%)

○主な相談内容：国際理解(17)、事業企画(12)、その他(5)

県民・NGOの活動推進事業

1. うつくしま地球支援助成事業(特別会計)

非営利の民間団体が行う公益性の高い5つの国際支援事業に対して助成金を交付し、その活動を支援した。

	事業名	実施団体	交付額(円)
1	ドイツ・エッセン学生オーケストラと福島市内小・中・高校生との「音楽」と「自然」を通じた国際交流事業	福島日独協会	300,000
2	タイ国山岳地帯少数民族に対する乳幼児発育管理の整備と粉ミルク供与・支援品送付事業	NPO法人 ザ・ピープル	300,000
3	アーティスト・イン・レジデンス三島2005	パフォーマンス・フェスティバル実行委員会	200,000
4	ベトナムの青年・学生に和英・英和・国語辞書を贈る運動	福島県アジア友好協会	100,000
5	届けネパールへ福島善意	ネパール福島友好協会	20,000
計			920,000

2. ふくしま地球市民フェスティバル2006事業

本協会、福島県、JICA二本松及びうつくしま未来博の出展団体等で設立されたNGO「国際交流・国際協力団体 ふくしま地球市民ネットワーク」の主催により、多くの県内NGO等の出展協力や県内企業等からの協賛協力等を得て、「ふくしま地球市民フェ

スティバル 2006」を実施した。その結果、4,000 人の来場があり県内 NGO の活動紹介の場を支援するとともに、レストランでの生態系還元型食器の導入などを通じて、一般県民への国際理解・国際協力への理解を広く呼びかけることができた。

日 時：平成 18 年 3 月 12 日(日)10:00～16:30

会 場：ビッグパレットふくしま

フレンドシップひろば出展団体：47 団体(昨年度比 94%)

協賛団体：92 団体（昨年度比 135%）

C ネットワーク調整

ネットワーク事業

1.国際交流ネットワーク事業(県補助事業)

(1)日本語教室・市町村国際交流協会ネットワーク会議

県内の日本語教室と市町村国際交流協会が出席し、外国籍住民の日本語学習をテーマに各立場での課題について話し合うとともに、当協会の日本語教室支援事業に対する意見交換を行った。その結果、共通課題の解決に向けた話し合いを通じて各団体間の連携を図るとともに、本協会事業への要望等を聞くことができ、次年度以降事業企画の参考とすることができた。

日 時：平成 17 年 10 月 21 日（金）10:00～16:00

会 場：郡山市労働福祉会館

講 師：独立行政法人国立国語研究所 野山広

参加者：33 名（日本語教室 21 名、市町村国際交流協会 12 名）

(2)NGOダイレクトリーの発行

県内に活動の拠点のある 171 の民間国際交流団体の連絡先・設立趣旨・活動内容等を本協会ホームページ上で掲載し、市町村地図から各団体ページが表示されるなど見やすいように再編集するなどして、団体間のネットワーク構築と県民への活動紹介に役立てた。

2.うつくしまー韓国文化交流事業(県補助事業)

日韓国交正常化 40 周年に当たる「日韓友情年 2005」を契機に、福島県と韓国との間の交流促進を図るため、韓国現代ファッションショーや日韓交流シンポジウム、日韓伝統芸能の競演など人的・文化的交流事業を行った。

日時：平成 17 年 5 月 6 日（金）～7 日（土）

場所：会津芦の牧温泉、鶴が城、郡山ビッグパレット他

3.海外移住者援護事業(県補助事業)

ブラジル県人会へ80万円、ペルー及びアルゼンチン県人会へ各20万円、パラグライ県人会へ10万円の補助金を交付し、県人会活動を支援した。

4.福島県費負担中南米国留学生受入事業(県受託事業)

ブラジル及びアルゼンチンの県人子弟2名を1年間留学生として受け入れた。また、県内の高校生3名を14日間ブラジルに派遣するとともに、ブラジルの県人子弟高校生2名を12日間受け入れ相互交流に努めた。

5.福島県海外技術研修員受入事業(県受託事業)

技術研修員(中国・林業技術、バングラデシュ・電気機器、ブラジル・情報技術)計3名を6ヶ月受け入れた。

6.草の根技術協力事業(JICA受託事業)

過去に受け入れた研修員(ラオス・看護業務)の配属先へ専門家3名を15日間派遣するとともに、ラオスからの研修員2名を約1ヶ月間受け入れた。

D 調査研究・提言

国際理解は全人教育という観点から、「小学校体育科における国際理解教育はどうあればいいか」をテーマにした研究を行い、その内容を福島県教育庁県北教育事務所に報告した。

E その他

1.「地域に学ぶ中学生体験活動事業」の受け入れ事業

福島県教育委員会主催の「平成17年度地域に学ぶ中学生体験活動事業」として、市内中学生を受け入れ、当協会業務の補助や市内のNGO訪問などを行うことで、参加生徒の国際理解・協力への理解の一助とした。

期間	受入中学校	人数
平成17年7月5日～8日	福島市立福島第2中学校	1名
平成17年7月11日～15日	福島市立西根中学校	3名

2. 関係機関への講師派遣

関係機関団体の各種事業に当協会職員を講師として派遣協力した。

月 日	主催者	事業名	職員名
平成 17 年 6 月 9 日	福島市西学習センター	インターナショナルカレッジ	幕田順子
平成 17 年 7 月 9 日	(財) いわき市国際交流協会	インターナショナルデイ	幕田順子
平成 17 年 9 月 1 日	福島県地方法務局	人権擁護委員研修会	何 敏
平成 17 年 9 月 9 日	仙台出入国管理局	出入国管理行政懇談会	五十嵐直樹 何 敏
平成 17 年 11 月 26 日 ～28 日	福島県国際理解教育ネットワーク	ふくしまグローバルセミナー2005	幕田順子
平成 18 年 1 月 18 日	いわき工業用水利用者協議会	いわき工業用水利用者協議会懇談会	何 敏
平成 18 年 2 月 14 日	(社) 福島県観光連盟	観光おもてなし研修会	何 敏
平成 18 年 3 月 4 日	会津高田町国際交流協会	講演会	幕田順子
平成 17 年 7 月 21 日～ 平成 18 年 3 月 31 日	福島県	ユニバーサルデザイン推進会議	何 敏